

地区名：阪谷地区

実施主体：食育のふるさと阪谷をよくする会

1 基本データ

- 地区人口 1,356人（H31.1.1 現在）
- 世帯数 447世帯
- 行政区数 18行政区
- 面積 約31.2平方キロメートル
- 地区の沿革

阪谷地区は大野市の北東部、白山山系の経ヶ岳の麓に位置し、西は九頭竜川を挟んで富田地区、北は勝山市、東は五箇地区に接している。

昭和29年の町村合併により、阪谷村が大野市となる。

標高250m～500mの中山間地域で、大野市の中でも雪が多い地区で、面積の3分の2は山林であり、農地は圃場整備が進み広大な棚田となっている。

六呂師高原には、広さ220ヘクタールの奥越高原牧場、自然保護センター、青少年自然の家等の県の施設やミルク工房奥越前等の市の施設を有する。

2 現状と課題

■人口減少している実態

阪谷地区の人口は、ここ数年の状況を見ると年間約40人ずつ減少している。地区の高齢化率は大野市平均を上回っており、自然減少はここしばらく高い割合で続いていくと思われる。また、地区外への転出もあり、人口減少は続いていくと思われる。

■人口減少に対する対策

人口減少による地域力（ヒト・モノ・カネ）の低下を補う手段として、地区内へ人を呼び込み、交流人口を増やすことが、地域力回復のキーワードになってくると思われる。

■阪谷のブランド化とインナーブランディング

交流人口を増やす事だけに目を向けるのではなく、阪谷地区が持つヒト、モノに磨きをかけ、ブランド化を目指すこと

が重要だと考える。その上で、インナーブランディングの観点で、地区民が、住んで良かったと思えるような活動を行っていく必要がある。

■阪谷の次世代を担う人材の育成

人口減少、高齢化に伴い、地域活動の担い手も高齢化、担い手不足の状況がある。今後も活発な地域活動を継続していくために、次の担い手を育成していく必要がある。

3 平成30年度の事業内容

【交流人口の拡大による地域活性化を図る。】

【「さかだに文化の里づくり」で地域活性化を図る。】

【食育の祖ゆかりの地を啓発して地域活性化を図る。】

【阪谷青年団の活動を支援する。】

を基本目標とし、①雪まつりの開催、②陶芸の魅力づくり、③食育の祖ゆかりの地として食育の推進と啓発活動、④青年団活動の応援に取り組んだ。

① 第5回さかだに雪まつりの開催

阪谷地区におけるさらなる交流人口の増加を狙い、今年の雪まつりは六呂師高原スキーパークで行った。

例年がない雪不足の中であったが、施設関係者の協力のもと開催にこぎつけ、当日の午前中はあいにくの雨であったが、午後からは晴天となり、約600人の来場者があった。

スノーチューブ体験は、ゲレンデを活用してコース設定ができたことにより、例年よりコースの長さを長くでき、またカーブやジャンプ台を設けることが出来き、とてもダイナミックなアクティビティとなった。

初めて企画したエアボード体験、スノータワーづくり、雪だるまコンテスト、ビーコン宝探しにはたくさんの参加があった。

スノーシューを履いて冬の森観察会に参加した親子からは、珍しい小動物を見ることが出来て参加してよかったという感想が聞かれた。

奥越農林総合事務所からイノシシ肉6kgの提供を受け、阪谷のこだわり野菜も入れたシシ鍋なべを数量限定で振る舞った。

今回の実行委員に、阪谷地区で野外活動の実践で活躍する坂本氏と青少年自然の家所長に加わっていただいたことと、六呂師高原スキークで開催できたことにより、例年と比較して多彩な企画が実施できたことが大きな成果であった。



〈巨大かまくらに入る子供たち〉



〈雪だるまコンテスト風景〉



〈冬の森観察会〉



〈スノーチューブ体験〉

②陶芸の魅力づくり 陶芸教室

自主グループ「越前おおの阪谷桃木窯」を中心に、毎月第1・3木曜日に中村鐵遷氏（勝山市在住）を講師に招き陶芸教室を開催した。

陶芸教室では、手捻りだけでなく、今年から電動ろくろによる作陶技術も習い、受講者の技術がさらに向上した。

また、毎回、作品テーマを決めて作陶に取り組み、年間を通して様々な作品を仕上げる事が出来た。

阪谷地区文化祭の陶芸体験教室において、受講者が講師役として、地元の親子連れ等に電動ろくろによる作陶を指導することが出来たことにより、陶芸が阪谷地区における体験プログラムの一つとして実施できる可能性が示されたことが大きな成果であった。





③食育の祖「石塚左玄」ゆかりの地啓発活動

食育の祖「石塚左玄」の先祖の墓所が、阪谷地区（萩ヶ野区）にあることから、阪谷地区で石塚左玄が唱えた『食育』を広めていこうと石塚左玄の訓えに基づいた料理教室を年3回開催した。

有機肥料を使い、化学肥料や農薬を使わない阪谷産農産物をおいしく食べる方法や食育の祖「石塚左玄」の訓えを通して、「食育」の重要性を地区内外に広めることができた。

例年参加している方の口コミで新規に参加された人が増えた事が大きな成果であった。



④青年団活動の応援

阪谷地区に青年団が結成され、阪谷地区で若者が集う場づくりや地域活動への参加の後押しを本交付金を活用して実施した。

具体的には、さかだに夏まつり、さかだに雪まつりの出店である。また、雪まつり出店の際には、おそろいのユニフォームを着用し、阪谷地区写真展も開催された。

企画段階から参画してもらい、イベント当日もたくさんの若者の姿が見られたことが大きな成果であった。



〈夏まつり出店風景〉



〈雪まつり出店風景&写真展開催〉

4 平成30年度の事業成果

①第5回さかだに雪まつりの開催

さらなる交流人口の拡大を図ろうと、今年はい会場を六呂師高原スキーパークで開催できないか、初秋から関係者で協議を重ねてきた結果、実現できたことは非常に大きな成果であった。午前中はあいにくの雨であったが、約600名ほどの来場者があり、さらなる誘客の可能性を感じる事が出来た。

イベント終了後の実行委員会では、今回実施できなかったアクティビティも実現したいという声が聞かれ、次回も六呂師高原スキーパークで開催するという方向性が確認できた。

②陶芸の魅力づくり

阪谷地区における文化面での交流人口の拡大を図る手段として、「陶芸の魅力づくり」をキーワードに、越前おおの阪谷桃木窯グループと連携し、陶芸教室の実施を足掛かりに阪谷地区における陶芸文化の広がりや交流人口の拡大を図った。

今年度も、阪谷小学校の総合活動授業に陶芸を取り入れてもらう事ができ、また、阪谷地区文化祭の体験教室に陶芸ブースを設置したくさんの方に陶芸体験をしてもらう事ができ、阪谷地区内で陶芸文化が確実に広がっていることが実感できたことが成果であった。

③食育の祖ゆかりの地として食育の推進と啓発活動

本事業では、阪谷地区とゆかりがある偉人である、食育の祖「石塚左玄先生」の人となりを知らしめるために、石塚左玄先生の訓えに基づいた料理教室を開催した。この料理教室には阪谷産有機野菜を中心に使用しており、また、訓えの実践により、阪谷地区の食と農の発信と食育の重要性を広めることが出来た。

受講生の口コミにより地区内からの新規受講者が増えて啓発活動が広がったことが成果であった。

④青年団活動の応援

若者が集う場の創出により若者世代の地区外流出を食い止める、地域行事に参加することで、地域の活性化と人材発掘、自己能力の向上を活動目的に結成された阪谷青年団の活動を、本交付金を活用し支援できたことにより、さかだに夏まつり、さかだに雪まつりへの出店につながったことは、本交付金が地域活性化に果たした役割は非常に大きいと感じる。

さかだに夏まつりにおいては、出店のほかに、ビンゴ大会の司会も担い、盛り上げに貢献してくれた。雪まつりにおいても、出店のみならず、阪谷地区の素晴らしい風景や人にスポットを当てた阪谷写真展も開催してくれた。

本交付金が青年団活動と地域活動とを結び付けてくれ、その活動を目の当たりにして、地区民を元気づけられたことが大きな成果であった。

5 今後の展望

「雪まつりの開催」については、今回は、土曜日のみの開催であったが、次回は日曜日の開催を目指すこととなり、スタッフの増員の必要性、六呂師高原スキーパークの通常営業との兼ね合いや昼食、休憩を取るスペースの確保について検討していきたい。

「陶芸の魅力づくり」においては、拠点施設

が整備されたの契機に、観光客などに工房に足を運んでもらい観光体験プログラムの1つとして実施できるよう、さらに関係者と協議していきたい。

「食育活動の推進」においては、食育の祖「石塚左玄」ゆかりの地として、地域や学校、関連団体と連携しながら、阪谷で採れた食材を味わえることの喜びや食育の重要性などを地区内外に広く伝えていきたい。

「青年団活動の応援」については、今後、応援が必要か、地域活動とどのように連携していくかなど、青年団の意思も尊重しながら、適切な応援を進めていきたい。